

優秀賞 3 人、佳作 3 人に賞金・賞状 懸賞論文で授与式 人文学部

第 3 回目を迎える人文学部、同後援会、文理・人文学部後援会共催の学生懸賞論文の賞状、賞金の授与式が 18 日昼、学部内で開催された。

式には、欠席を除く受賞した 5 人の学生のほか、土田惣一人文理・文学部同窓会会長、審査委員の小田部卓茨城新聞社長、伏見厚次郎副学長、佐川泰弘人文学部長らが出席した。



冒頭、伏見副学長が学生懸賞論文の趣旨などについて説明。同窓会の増子節壽理事は、「現状分析や経済などについての主張が見事に展開されている論文が目立った。今後とも是非頑張してほしい」とあいさつした。

選考委員長を担当した佐川学部長は、募集に対して 3 年生以上からは 11 人、1、2 年生

からは 15 人、計 26 人からの応募があり、11 月末の

選考で、優秀賞に社会科学科 4 年の岩木良徳さん、

小澤絵里さん、同 3 年の海老根由美さんの 3 人を、

佳作には、同 4 年の山本裕也さん、同 3 年の藤田歩

さん、人文コミュニケーション学科 1 年の大古祥代

さんを選出したと報告。「毎年レベルはアップしてい

るものの、ずば抜けて優秀な作品がなく、今年是最

優秀賞(最優秀賞 10 万円)の該当を見送った」と説明した。

その後、賞状と賞金(優秀賞 5 万円、佳作 2 万円)が学生へ贈られた。審査員の小田部社長からは、「もう少し汗をかき、地域の課題にメスを入れて論文を書いていただきたい」との注文があった。式典の終了後は、懇談会へ移り、受賞者と同窓会会長らとの間で意見交換があった。



(終)